

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：2012年6月20日(水)

地域企業紹介 19
株式会社向洋技研

誰でも簡単に美しい溶接を。 世界のモノづくりの現場で 愛される「MYSPOТ」

中央区田名にある株式会社向洋技研の本社工場に甲斐美利社長を訪ねました。社員全員の真っ白な制服がとても印象的でした。

甲斐さんは宮崎県東臼杵郡南浦村須美江(現在は宮崎県延岡市須美江町)できびなご漁や炭焼きを家業とする家の三男として生まれる。教育熱心な父親の勧めもあり宮崎県立向洋高等学校(現延岡工業高等学校)の機械科で学び、卒業後は本田技研の創業者本田宗一郎氏が私財を投じて設立した株式会社ホンダロックに入社する。

▲甲斐さんは大阪の大手メーカーへの就職を望んだがかなわず、地元で創業したばかりのホンダロックに入社し、人生の師と仰ぐ本田氏に巡り合うことになる。入社して3年目にはホンダロックでの仕事ぶりが買われ、本田氏直属のプロジェクトに加わることになる。その当時、本田技研はマン島の二輪レースで連勝を重ねていたが、マシンの心臓部であるカムチェーンだけは英国のレイノルズ社製。それが我慢できなかった本田氏は本田技研グループから精鋭20人を集め純国産で世界最高のカムチェーンをつくるためのプロジェクトチームを立ち上げ、甲斐さんは熱処理のスペシャリストとしてチームに参加する。「とにかく厳しかった。本田さんはものづくりの裏側まで見通して切り込んでくる。世の中にこんなに怒鳴る社長がいるのかと。でも、最年少の私には車や技術のことをやさしく教えてくれる一面もありました」と甲斐さんは懐かしそうに話す。また、入社したときから、本田さんは30歳定年を説いたという。「ホンダの設計技術とものづくりは世界一、それを10年学んで習得できなくて会社に残っているようではだめだ、みんな独立しなさい」

その影響を強く受けた甲斐さんは10年勤務したホンダロックを昭和49年に退社し、相模原市に住む兄の会社を手伝いながら営業や経営の経験を積んだ後、昭和56年に下九沢で設計会社を創業する。相模原市大山町にあったセントラル自動車の抵抗溶接機の治具の設計を専ら手掛ける。そんななか、コピー機のメーカーから用紙を入れるワゴンの溶接について用談を受ける。「一日に400個もの箱物のワゴンを作るのに、人間が身体をねじ込んでガンを押えつけて溶接している。作業も大変だし、作業員もヘトヘトになって溶接の品質も悪い。何とかならないか」そこで甲斐さんの脳裏に浮かんだのが、機械化されたスポット溶接で流れるようにつくられる自動車生産の現場。「なぜ、一般の精密板金業界では非効率で負担の大きい溶接作業が続いているのか」この疑問を解決するために考えたのが熟練技能者の持つ溶接のノウハウ・条件・動作をビルトインしたテーブルスポット溶接機。(2面にづく)

株式会社向洋技研
代表取締役 甲斐 美利
所在地：相模原市中央区田名4020-4
従業員数：30名 資本金：2,000万円
売上高：5億円(平成23年度実績)
事業内容：
テーブルスポット溶接機「MYSPOТ」及び関連商品の設計・製造

相談を受けた翌年の昭和63年には大阪の展示会でテーブルスポット溶接機「MYS POT」を発表し大きな評価を受ける。この装置が「誰でも簡単に美しい溶接」を可能にした。溶接業界にとって100年ぶりのセンセーションを巻き起こしたのだ。最新の技術やノウハウを取り入れ進化を続ける「MYS POT」は中国、東南アジア、ヨーロッパでも販売され、現在の向洋技研の海外比率は35%を超えている。「MYS POT」は世界のモノづくりの現場で愛され、重宝される装置として不可欠な存

在になっていくだろう。

社名の向洋技研は母校向洋高校からの引用。向洋高校は日向灘の北端延岡市の海岸沿いにある。「15歳で故郷を遠く離れ高校の寮に入り、夕方になると海岸の砂浜に座りじっと海を見つめていました。その頃の想いを起業時に思い出し引用しました」初めての一人暮らしで心細さもあっただろうが、どこまでも広がる日向灘の海を眺め、甲斐さんは大きな希望や自主独立の志を抱いたのだろう。そして、その想いは今も続く。

株式会社 カイゼン・マイスター

中小企業の良き相談相手を目指して！



株式会社カイゼン・マイスター(代表取締役社長 小森治氏)は、トヨタ生産方式に基づく現場カイゼン支援活動を行うコンサルタント会社。メンバーは、相模原市のセントラル自動車(トヨタの生産子会社で昨年宮城県へ工場移転、今年8月に関東自動車・トヨタ東北と統合しトヨタ自動車・東日本としてトヨタの東日本の生産基地として新規発足)のOBで、全員がトヨタ生産方式を体得し、経験年数はいずれも40年を越える「カイゼンマイスター」である。

小森治氏は、1964年トヨタ自動車株式会社入社後、購買部門(部品・設備・仕入先支援)をスタートにトヨタの海外工場(欧州・豪州・アジア)に延べ16年駐在。トヨタ英国製造副社長・トヨタオーストラリア社長などを歴任後、セントラル自動車社長に就任。同社退任後OBの仲間と共に(株)カイゼン・マイスターを設立した。

カイゼンとは、一言で表すと「徹底的なム

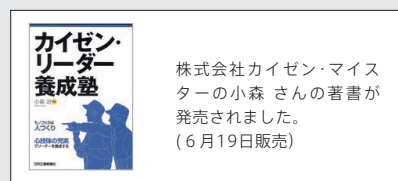
ダの排除を通じて、原価低減を実現する活動」のこと。例えば、工場内におけるムダやりにくい原因となっている事柄などを見直すことで、生産性の向上を目指す。内容としては、①生産工程の合理化支援 ②在庫管理及び物流カイゼン支援 ③教育訓練に関する支援などがある。

「モノづくり」は「人づくり」。「人づくり」を通じてQ「品質」C「原価」とD「納期」のカイゼンを図る。トヨタ生産方式は、業種の壁、規模の大小を越えて、中小企業に多い多品種少量生産に適し、同社はこれまで、北は青森から南は鹿児島にかけて、従業員数名の小規模企業から数百人の中規模企業、数千人の大企業まで含めて累計150社以上に幅広く改善支援を実施。業種も製造業だけでなく農林水産関係、病院、銀行の事務センターなど多くのサービス業にも及んでいる。最近、海外からの要請に応じてオーストラリアやサウジアラビアなどの企業の支

援も実施しているが、基本はあくまでも日本の中小企業のお役にたてる事を経営理念としている。

カイゼン・マイスターは、奉仕と社会貢献を念頭に置きながら、様々な技術と経験を生かして日本の中小企業のよき相談相手となることを目指して日々研鑽に励んでいる。

著書の紹介



株式会社カイゼン・マイスターの小森 さんの著書が発売されました。(6月19日販売)

株式会社カイゼン・マイスター
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
SIC-1 306号室
TEL.042-730-7891 / FAX.042-730-7892
E-MAIL: osamu_komori@ybb.ne.jp
URL: <http://members3.jcom.home.ne.jp/0450781301/>

日本のシリコンバレーを夢見て

相模原市 環境経済局 経済部 産業・雇用政策課
企業誘致・企業支援班



(左から、犬飼さん、渡辺さん、古谷さん)

産業・雇用政策課で企業支援を担当している渡辺です。市役所の産業・雇用政策課は、産業政策班、雇用政策班、企業誘致・企業支援班の3つの班で構成をされ、職員数は派遣職員を含めると20名になります。産業政策班は産業政策の推進に関わる企画や調査を行うほか、融資制度に関する事務を行っております。雇用政策班は勤労者福祉に関する仕事のほか、雇用対策や産業人材の育成などにも取り組んでいます。企業誘致・企業支援班は、市外から市内への企業移転や、工場の増設などを推進する企業誘致のメンバーと、研究開発や販路開拓などソフト的な企業支援に取り組むメンバーで構成されています。

企業支援は、私のほか昨年度から関東経済産業局から研修派遣にきている古谷と関東経済産業局での研修派遣から帰って来て2年目を迎えた犬飼の3名で担当をしています。3人では多くの企業の方々に十分なサービスを提供することが困難であり、また、企業の方々における経営課題が複雑化し、より専門性の高い支援が必要とされているため、『さがみはら産業創造センター』を始めとした市内の産業支援機関や金融機関などとの連携によって企業支援に取り組んでいます。

企業支援の仕事は、まさに『一期一会』の世界で、同じ状況での支援はあり得ません。企業を取り巻く経済情勢は刻一刻と変化をし、また個々の会社の経営資源は全て異なります。そのため支援する側も常にアンテナを高く張り、最新の情報を仕入れて、企業の方々のニーズに応えられるよう『切磋琢磨』することがとても重要だと考えております。そのため、支援する側の人材の量を確保することも重要ですが、携わる人材のスキルアップを図るための仕組み作りも私たちの重要な役割だと感じています。

製造業が活力を失うと、地域経済が停滞をしてしまいます。製造業の現場で雇用が失われれば、人口が流出してしまい、地域にとっては大きなダメージとなります。製造業だけが地域経済を牽引するわけではないかも知れませんが、製造業が元気であることは、建設業や物流業などだけでなく飲食や物販など幅広い産業にその勢いが派生します。そういう意味からも、自分たちの仕事はとても『やり甲斐』のある仕事ではありますが、それだけに責任も重大な仕事だと感じています。平均年齢36.3歳の若いチームですが、相模原を『日本のシリコンバレー』にすることを夢見て、日々精進をして参りたいと考えております。ご意見やご相談したいことがございましたら、お気軽に声をお掛けください。

<連絡先> 相模原市環境経済局 経済部 産業・雇用政策課 TEL.042-769-9253

甲州街道小原宿本陣 (旧清水家宅) 県指定重要文化財

相模原市には、神奈川県下で現存する唯一の本陣『小原宿』があります。この本陣は、江戸時代後期から約200年、幕末、明治維新、戦争と激動の歴史を見ています。

清水家(後北条氏の家臣)が昭和45年まで居住し守り続けてきたもの…。日本橋から十五里二十一町余り。ちょっと時空を越えてみてくださいませんか。



会社の『力』を POWER UP!!

パワーアップ

さがみはら企業力支援事業

平成24年度相模原市中小企業新分野進出等支援事業

- 支援対象者**
- 1.相模原市内の法人(法人化予定を含む)であるものづくり企業様(製造業または情報通信業)
 - 2.新規性、独創性があり、高い成長力を期待できる事業に積極的に取り組もうと考えている企業様
 - 3.その他SICが認めた企業様

支援期間 平成24年6月～平成25年3月末日

応募期間 通年募集(支援予定企業数に達し次第終了となります)

支援内容 企業が抱える課題に対して、アドバイザー等が複数回のご訪問等を通じて課題の解決を支援していきます。

費用 無料

選考 【簡易アドバイス】として20社程度、【伴走支援】として8社程度を予定しています。ご提出頂きました、応募書類に基づきSICスタッフがヒアリングを実施し、支援対象者を選考いたします。(ご提出内容の機密はお守り致します。)

■ヒアリングのお申し込みはSICホームページから。

6月～ SICイベントカレンダー

2012年6月～

- 2012年6月23日 SIC 経営塾開塾 オリエンテーション
- 6月27日 入居企業交流会(SIC-3にて)
- 6月29日 SIC 職場リーダー養成塾開塾 オリエンテーション
- 8月5日・7日・8日・10日・11日 ジュニアアントレ開催
- 8月15日・17日～19日 子どもアントレ開催



入居企業を募集してます。

SIC 空室情報 (6月20日現在) SICまでお気軽にお問合せください。(賃料:共益費込み)

	部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1	セミラボ B	31.5 m ²	1 93,975円
SIC-2	セミラボ	50.2 m ²	1 164,850円
SIC-3	ラボ(84m ²)+サブラボ(28m ²)	2	211,680円
	オフィス B	21 m ²	1 48,510円

企業の新分野進出を応援します!!

SIC さがみはら産業創造センターでは、各種情報や知見を持つ外部の専門家と SIC スタッフとが協同して、新たな事業の開発や新分野への進出等を考えている企業様が抱える課題の解決と成長をサポートします。

課題解決

実務支援、相手先紹介など

情報提供、計画策定支援など

新分野進出を目指す企業にアドバイザーが訪問し情報提供

簡易なアドバイスや情報提供を実施(最大3回程度)

伴走支援

アドバイザーが企業へ訪問し課題解決(5回程度を目安)

【伴走支援】は、【簡易アドバイス】支援の企業が対象となり、別途お申込み・選考が必要となります。

新分野進出 経営課題

- 専門家相談**
 - 事業計画、収支計画相談
 - 特許取得、契約書内容の相談
 - IPR方法、デザイン相談
 - 医学連携、新薬事業や開発産品の相談
- ビジネスマッチング**
 - 協業先マッチング
 - 外注先マッチング
 - 大手企業や中小企業とのマッチングイベント
- 補助金申請支援**
 - 申請先や所管部署紹介
 - 計画作成/申請書作成支援
 - 産学連携/パートナー紹介
- PR支援**
 - 新聞等への掲載支援
 - ビジネスオピニオン等の紹介
 - 広報誌での紹介

お申し込み、まだ間に合います!
おかげさまで経営塾は
11年目を迎えます。



当塾では、経営の理論と実践を学ぶとともに、塾生自らが事業構想を再構築することにより、「真の経営力」を養成することを最終目的としています。11年目を迎える本年度も『SIC 経営塾』塾生の募集をしています。

- 開催期間 平成24年6月～平成25年2月(全11回)
 - ◆募集人員 15名
 - 対象 経営者または経営幹部
- 詳しくは、SICホームページをご覧ください。

編集後記

前号の『かわらばん第18号』にアンケートを同封させていただきましたところ、3%の方々から回答をいただきました。ありがとうございました。今回のアンケートでは、企業紹介で情報が物足りないと言うご意見をいただきました。情報を増やせるその時までには、「かわらばん」を「きっかけ」として頂ければ幸いです。そして、もっと、皆様に興味を持っていただけるような紙面作りに取り組んでまいりますので、これからもアンケート時に関わらず、ご意見などいただけますよう、お願いいたします。



★ご意見・ご感想をお待ちしています。

(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>